

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 7日は、低気圧が発達しながら日本の東を北上し、千島近海に進む。日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 8日は、低気圧がオホーツク海に進み、気圧の谷が日本海にのびる。日本海で低気圧が発生する可能性がある。
- 9日は、日本海の低気圧が北日本付近を通過して、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。
- 10日から11日は、日本付近は冬型の気圧配置が続くが、11日は冬型の気圧配置が次第に緩む。

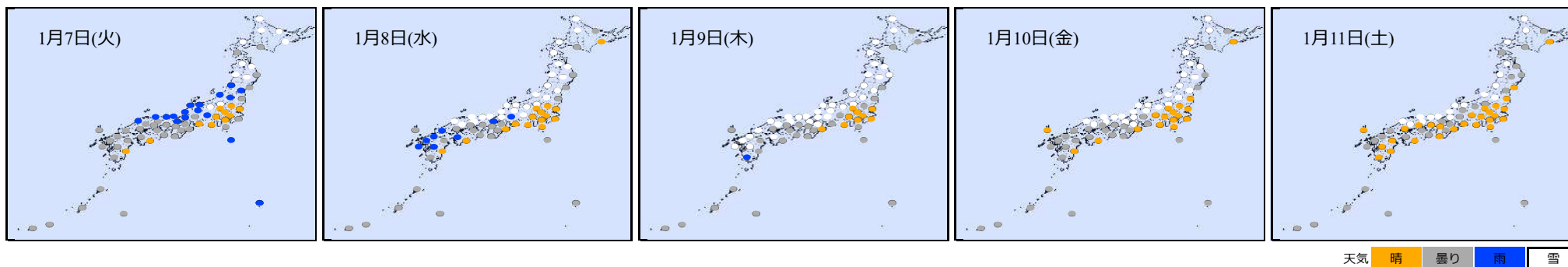
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 9日頃は、日本付近は冬型の気圧配置が強まり、日本海側を中心に荒れた天気となる。冬型の気圧配置の強まりや寒気の程度等によっては、警報級の大雪となるおそれもある。今後の予想に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

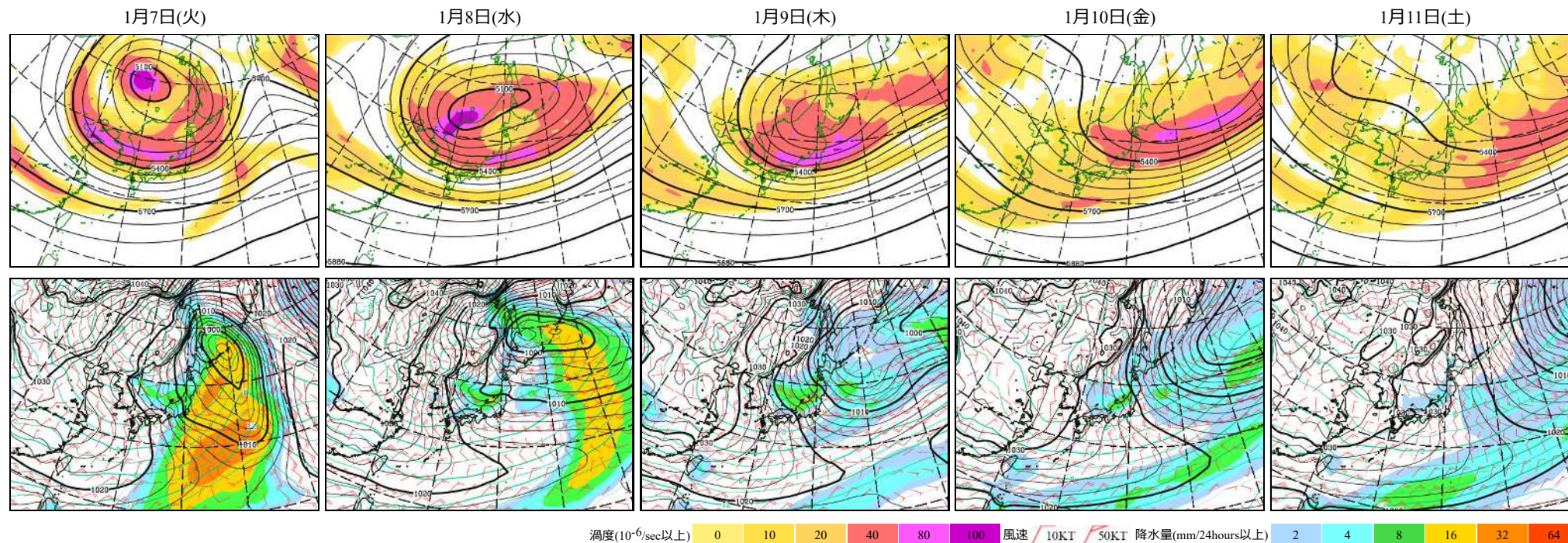
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

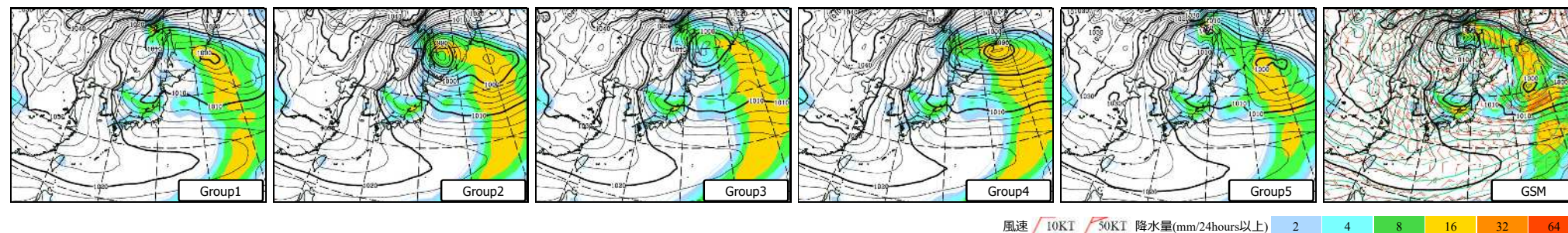


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れる所が多い。
- 西日本太平洋側は、晴れる所もあるが雲が広がりやすい。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい日が続く。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月8日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7日はじめに関東の沿岸付近を進む低気圧は昨日予想よりも明瞭となり、その後、日本の東を発達しながら北上してオホーツク海に進む予想となった。9日頃に日本海北部に進む寒冷渦は強めとなり、10日頃に日本付近を通過するトラフは深く東進が遅くなった。9日頃の冬型の気圧配置の強まりは引き続き予想されている。
- 期間の終わりは、5400m特定高度線のばらつきが大きい。地上では、冬型の気圧配置の強まりや緩み方がアンサンブルメンバー間でばらついている。
- 各モデルとも、7日はじめに関東の沿岸付近を低気圧が進む予想となり、この低気圧は発達しながら日本の東を北上して、8日にかけてオホーツク海付近に進む予想となったが、低気圧の位置や発達程度はモデル間で差がある。
- 期間の終わりはトラフが日本付近を通過する予想となっている。トラフの深まりや通過のタイミングはモデル間で差があり、冬型の気圧配置の強まりの程度や冬型が強まるタイミング等に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。